

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
			2・東書	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・705
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号についてのまとめや年表の読み取りから年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、福岡や福井の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、テーマ設定などの調査方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では律令国家の形成に着目して、貴族と一般の人々の生活の違いが生じた理由を考察したり、単元のまとめでは「古代日本のキーパーソンは誰だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、鎌倉時代では武家政治の成立の影響に着目して、平安時代の仏像と特徴を比較して違いを考察したり、単元のまとめでは「古代との比較から中世の特色を探ろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、織田・豊臣の統一事業に着目して、戦国時代を終わらせた最も重要な政策を考察したり、単元のまとめでは「近世で最も活躍した身分はどれだろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の諸改革の目的に着目して、政府のアイヌ民族と琉球民族への対応の相違点を考察したり、単元のまとめでは「日本と世界との結びつきを考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、戦後の政治の展開と国民生活の変化に着目して、日本復興の象徴となる出来事を考察したり、単元のまとめでは「現代の日本を形作ったものは何だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、応仁の乱の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、戦いの様子を描いた複数の時代の資料を比較し、社会の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史へのとびら」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は 26 ページ、「近世までの日本とアジア」は 124 ページ、「近現代の日本と世界」は 130 ページ、その他は 15 ページであり、総ページ数は 295 ページで、前回より約 9 % 増となっている。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 江戸時代の最上徳内、近藤重蔵、間宮林蔵らの北方探検の地図を掲載して、その行程を紹介したり、「アイヌ文化とその継承」として、儀式や神話、生活の様子などの資料を掲載して、13 世紀以降のアイヌ文化の成立と展開、アイヌ文化継承の動きを説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「チェック」で、一単位時間の学習の終わりに基礎事項を確認する活動や、「トライ」で、要約や説明により学習課題を解決する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、室町時代や江戸時代の学習におけるアイヌの人々の交易や、明治時代の学習における屯田兵による開拓の様子などが取り扱われている。北方領土については、明治時代の学習などで取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、「Dマーク」(QRコード)が掲載されており、「原子爆弾の投下」の動画や、国立国会図書館などへのリンク、年代の表し方の練習問題などを学習に活用できるようにするとともに、「身近な地域の歴史」などにおいて、インターネットを使った検索方法や発信方法を紹介したり、プレゼンテーションソフトを使った発表方法を説明したりするなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、第1章で小学校の学習を振り返る活動を設定したり、小学校で学習した人物や文化財、出来事を掲載したページに「小学校マーク」を示したりすることで、中学校の歴史学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末にXチャートなどの多様な思考ツールを活用して学習内容を整理する「まとめの活動」を設定するとともに、グループで協力しながらテーマについて話し合う「みんなでチャレンジ」が設定されているなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、グラフの変化の読み取り方などを説明する「スキルアップ」のコーナーや各時代の特徴的な資料から人々の様子などを読み取らせる「資料から発見」を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「チェック」及び「トライ」のコーナーを設定するとともに、章末に学習した用語を用いて単元の課題解決を行う「基礎・基本のまとめ」を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		17・教出	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・706	中学社会 歴史 未来をひらく
取 扱 内 容	学 習 指 導 要 領 の 総 則 及 び 各 教 科 の 目 標 、 内 容 等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物や文化遺産に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、時代区分、年号についてのまとめや年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、名古屋や川崎の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査方法や発表方法を示した地域調査の手引きから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では中央集権国家の仕組みに着目して、中央と地方の関係を考察したり、単元のまとめでは「日本という国がどのように成立し、発展していったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では文化の変化に着目して、社会の変化との結び付きを考察したり、単元のまとめでは「古代と比較し、中世はどのような時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、元禄・化政文化の形成に着目して、共通点や時代背景の違いを考察したり、単元のまとめでは「江戸時代と前の時代を比較して、近世の特色を説明してみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、議会政治の展開に着目して、明治政府と民権派の考え方の違いを考察したり、単元のまとめでは「日本が近代化に成功した理由について考えてみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、国際社会における我が国の役割に着目して、平和な世界を築くための取組を考察したり、単元のまとめでは「日本が国際的地位を向上させた要因を説明しよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、鎌倉時代の人々の暮らしの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、絵巻物を中心に複数の資料を比較し、人々の生活の様子について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内 容 の 構 成 ・ 排 列 、 分 量 等	<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史の流れをとらえよう」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は 27 ページ、「近世までの日本とアジア」は 122 ページ、「近現代の日本と世界」は 141 ページ、その他は 8 ページであり、総ページ数は 298 ページで、前回より約 14 % 増となっている。</p>				
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○ 江戸時代に函館に来航したペリー艦隊の航路や函館の来航記念碑の写真を掲載して、函館寄港の際のエピソードを紹介したり、アイヌの人たちの言葉や文化について、神話の資料を掲載して、現在までアイヌ文化を伝えてきた人々の努力を説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「確認」で、一単位時間の学習内容を振り返って整理する活動や、「表現」で、学習内容を図にしたり、自分の言葉で説明したりする活動を掲載したりするなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、室町時代の学習におけるオホーツク文化や、明治時代の学習におけるアイヌ神謡集と知里幸恵などが取り扱われている。北方領土については、明治時代の学習の本文や特設ページ「隣国と向き合うために」において取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、まなびリンク（QRコード）が掲載されており、文化庁などのリンク集を学習に活用できるようにするとともに、「身近な地域の歴史を調べよう」において、インターネットを使った検索方法やプレゼンテーションソフトを使った発表の仕方を紹介するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、第1章で小学校で学習した歴史上の人物などを振り返る活動を設定したり、本文中に登場する人物の中で小学校で学習した人物にマークを付けたりするなど、中学校の歴史学習に対する興味・関心が高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に新聞などへ学習内容を整理する活動を位置付けた「～時代の特色を考えよう！」を設定するとともに、具体的なテーマについて予想する「時代の変化に注目しよう！」を設定するなどの工夫がなされている</li> <li>○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、写真などの資料の読み解き方などを説明する「歴史の技」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認」及び「表現」のコーナーを設定するとともに、章末に「学習のまとめと表現」において、学習した用語を用いて説明する問題「○○について説明しよう。」を設定するなど工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観 点	番 号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		46・帝国	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・707	社会科 中学生の歴史 日本の歩みと世界の動き
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史上の人物や出来事に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、元号についての資料やそれらを示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、博多や横浜の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、情報の集め方などについて示した「技能をみがく」のコラムから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では東アジアとの接触や交流に着目して、仏教の伝来とその影響を考察したり、単元のまとめでは「古代の国が成立するために重要なことは何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では諸産業の発達に着目して、文化などの特徴を考察したり、単元のまとめでは「武士と庶民がそれぞれの結び付きを強めていった目的は何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸時代では鎖国などの幕府の対外政策に着目して、幕府にとっての鎖国の利点を考察したり、単元のまとめでは「安定した政権が成立するために必要なことは何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治時代の近代産業の発展に着目して、農村の人々の生活の変化を考察したり、単元のまとめでは「近代化による、政治や社会の大きな変化とは何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、日本の高度経済成長に着目して、経済や産業、社会や国際関係の変化を考察したり、単元のまとめでは「現代の日本社会を形づくる画期となった出来事は何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、元禄文化の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、屏風に描かれた二つの装飾画から共通点を見いだして、文化の特色について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等		<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史のとらえ方と調べ方」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は13ページ、「近世までの日本とアジア」は134ページ、「近現代の日本と世界」は125ページ、その他は5ページであり、総ページ数は292ページで、前回より約11%増となっている。</p>			
使用上の配慮等		<p>○ 明治時代の札幌の地図や屯田兵村の写真、北海道の開拓と産業の発展に係る資料を掲載して、北海道や札幌市の近代化の過程を説明したり、アイヌの人たちの生活や文化について、神話や衣食住などの資料を掲載して、独自の文化を築いたことについて説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「確認しよう」で、一単位時間の学習内容を振り返り、大切な事項を確認する活動や「説明しよう」で学習内容を自分の言葉で説明する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、大正時代の学習におけるアイヌ神謡集と知里幸恵や、江戸時代の学習におけるアイヌの人々の生活などが取り扱われている。北方領土については、日本の独立と世界の動きの学習の本文や特設ページ「日本の領土確定と近隣諸国」で取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、二次元コード（QRコード）が掲載されており、「NHK for school」の動画や、教科書に掲載されているイラストなどを学習に活用できるようにするとともに、「歴史の捉え方と調べ方」において、インターネットを使った検索方法を紹介するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、第2部冒頭において歴史学習の全体像を表す図で小学校で学んだ事柄とのつながりを示したり、節の冒頭に設けた「タイムトラベル」で小学校の既習事項を取り上げたりするなど、中学校の歴史学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に各時代の特色などについて関係図を活用して整理させる「章の学習を振り返ろう」を設定するとともに、異なる立場から歴史的事象を考察させる特設ページ「多面的・多角的に考えてみよう」を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、系図や絵巻物などの見方を説明する「技能をみがく」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間の学習内容の整理とまとめを行う「確認しよう」及び「説明しよう」を設定するとともに、章末に根拠となる資料を用いて「章の問い」に対する説明を行う「章の学習を振り返ろう」を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		81・山川	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・708	中学歴史 日本と世界
取扱内容  学習指導 則及び各 教科の目 標、内容 等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史を大きく変えた人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、時代区分、年号についてのまとめや年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、平泉や金沢の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査方法やレポートの作成方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、平安時代では東アジアとの接触や交流に着目して、文化の国風化を考察したり、単元のまとめでは「平安時代になると、社会はどのように変化したのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では武家政治の展開に着目して、幕府の仕組みや守護の役割の変化を考察したり、単元のまとめでは「宗教が大きな影響力をもった理由を考えてみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸時代では産業や交通の発達に着目して、生産技術の向上や三都の発展を考察したり、単元のまとめでは「近世の日本の経済や社会はどのように変化しただろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の外交の展開に着目して、国際関係の変化を考察したり、単元のまとめでは「明治政府はどのような近代国家をつくろうとしていたのだろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、日本国憲法の制定やそれに伴う法律の改正に着目して、日本の民主化の進展を考察したり、単元のまとめでは冷戦下の世界で起こった戦争の特徴は何だろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、日露戦争と東アジアの学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、風刺画や地図などの様々な資料を基に日露戦争に至る過程とその戦争が与えた影響について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>				
内容の 構成・ 排列、 分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史との対話」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は 22 ページ、「近世までの日本とアジア」は 132 ページ、「近現代の日本と世界」は 125 ページ、その他は 9 ページであり、総ページ数は 288 ページとなっている。今回は調査研究が行われていないため、増減の比較はできない。</p>				
使用上の  配慮等	<p>○ 明治時代の札幌の地図やクラークの資料を掲載し、開拓の歴史などから札幌について考える課題を位置付けたり、アイヌの人たちの歴史と文化について、アイヌ民族の首長やイオマンテの様子を描いた絵を掲載して、特徴を示したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「ステップアップ」で、一単位時間の終わりに新たな課題を追究する活動や、「歴史を考えよう」で、学んだことを基に考察する活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインを取り入れたりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、明治時代の学習におけるアイヌ神謡集と知里幸恵や、アイヌの人々の歴史と文化などが取り扱われている。北方領土については、明治時代の学習における本文と特設ページ「日本の領土の変遷」などで取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、二次元コード（QRコード）が掲載されており、「NHK for school」の動画や、博物館や資料館のホームページなどを学習に活用できるようにするとともに、「身近な地域を調べよう」において、インターネットを使った検索方法やプレゼンテーションソフトを使った発表の仕方を紹介するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、第1章で小学校で学習した「歴史を大きく変えた人物」を「人物カード」にまとめる活動を設定し、中学校の歴史学習に対する興味・関心を高めるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、札幌市などの地域の歴史を様々な角度から歴史的に考える「地域からのアプローチ」を設定するとともに、京都の変化などのテーマについて話し合う特設ページ「歴史を考えよう」を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、写真やグラフ、コラムなどに関連して考えさせる発問や、視点を具体的に示すなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間で学習したことを基に重要語句などを用いて説明する「ステップアップ」を設定するとともに、章末に各時代の文化などを表にまとめ、学習内容を整理し、各時代の特色を捉える「まとめ」を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	



観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		116・日文	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・709	中学社会 歴史分野
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、小学校で学習した歴史を大きく変えた人物に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や世紀、年号、時代区分を示した年表から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、奈良や大阪の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、歴史の調べ方について示した「スキルUP」のコラムから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、奈良時代では古事記や日本書紀に着目して、当時の人々の信仰やものの見方を考察したり、単元のまとめでは「文字の変化に着目して、古代までの特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では産業が発達していく過程に着目して、民衆の成長を背景とした文化の高まりを考察したり、単元のまとめでは「法に着目して、中世の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸幕府の政策や社会の変化に着目して、幕府の改革が成功しなかった理由を考察したり、単元のまとめでは「幕府の収入に着目して、近世の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、明治政府の富国強兵政策の目的に着目して、近代国家建設を急いだ理由を考察したり、単元のまとめでは「明治政府の政策から、近代の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、経済大国となった日本と諸外国との関係に着目して、世界に与える影響を考察したり、単元のまとめでは「復興と成長の源に着目して、現代の特色にせまろう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、承久の乱の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、複数の資料から読み取ったことをもとに、古代から中世への時代の変化について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、「私たちと歴史」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は 23 ページ、「近世までの日本とアジア」は 138 ページ、「近現代の日本と世界」は 143 ページ、その他は 16 ページであり、総ページ数は 317 ページで、前回より約 16 % 増となっている。</p>				
使用上の配慮等	<p>○ 北方領土に関する条約や北方領土付近の国境の変化の地図、写真などの資料を掲載して、第二次世界大戦後の日本の取組を説明したり、アイヌ文化について、儀式や神話、国立アイヌ民族博物館などの資料を掲載して、アイヌ文化の伝承について説明したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「確認」で、一単位時間の学習の理解を確認する活動や、「深めよう」で、学習課題の理解を深める活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、ユニバーサルデザインフォントを使用したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、中世の学習や江戸時代の学習における和人とアイヌの人々の交易の様子などが取り扱われている。北方領土については江戸時代の北方調査の学習の本文や、特設ページ「歴史を掘り下げる」などで取り扱われている</li> <li>○ ICTの活用については、「デジタルマーク」(QRコード)が掲載されており、「空から見た太平洋戦争後の東京の焼け跡」の動画や、ワークシートなどを学習に活用できるようにするとともに、「スキルUP」のコーナーにおいて、インターネットを使った施設見学の事前調査の方法を紹介するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、第1編で小学校の学習を振り返る活動を設定したり、各見開きの「小学校連携コーナー」において、小学校で学んだ人物、文化などを確認できるようにしたりするなど、中学校の歴史学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に時代の特色を表を活用して学習内容を整理させる「アクティビティ」を設定するとともに、歴史的な見方・考え方を働かせて考えさせる「深めようコーナー」を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 課題の解決に向けて、複数の資料の中から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりすることができるよう、系図の見方などを説明する「スキルUP」のコーナーを設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間で学習した内容を説明する「確認コーナー」を設定するとともに、章末に地図を使って各時代において、日本とつながりの深い国との関係を説明する「学習の整理と活用」を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観 点	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
観 点  取扱内容  学習指導 要領の総 則及び各 教科の目 標、内容 等	227・育鵬社	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・710	[最新] 新しい日本の歴史
内 容 の 構 成 ・ 排 列 ， 分 量 等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう，次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において，歴史の流れと小学校で学んだ人物や出来事に着目して，時代区分との関わりについて考察したり，西暦や世紀，様々な時代区分についてのまとめから年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において，推移や比較などの視点に着目して，大阪や横浜の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり，実際の調べ学習を例にした調査の流れから地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において，飛鳥時代では律令国家の確立に至る過程に着目して，聖徳太子が目指した政治を考察したり，単元のまとめでは「古代の日本と中国の関係がどう変化したのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において，鎌倉時代では武家政権の成立や仕組みに着目して，古代の律令政治との違いを考察したり，単元のまとめでは「この時代の人々の暮らしや社会がどうなったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において，江戸幕府の諸政策の目的に着目して，幕府がどのように支配を固めたのかを考察したり，単元のまとめでは「江戸時代の社会はどんな社会だったのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において，明治時代の外交の展開に着目して，国境が定められた経緯を考察したり，単元のまとめでは「この時代のできごとで最も重要と思うものは何か」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において，第二次世界大戦後の諸改革に着目して，日本の民主化と再建の過程を考察したり，単元のまとめでは「これからの日本はどんな社会になり何が問題になるのか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については，江戸幕府による鎖国の学習において，学習課題を設定し，見通しをもたせるとともに，鎖国を肯定する視点と否定する視点を比較し，鎖国の影響について話し合い，考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
使 用 上 の 配 慮 等	<p>○ 「お雇い外国人」の紹介として，北海道に縁のあるウィリアム・スミス・クラークを取り上げ，北海道の開拓にまつわるエピソードを示したり，アイヌの人たちが行っていた交易に関する資料を掲載して，アイヌの人たちと周辺諸国や地域との関係を示したりするなど，生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「歴史ビュー」で，本文の内容について多角的な視点から考察する活動や，「歴史のターニングポイント」で，各時代の出来事について意見を交換する活動を掲載するなど，主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり，全ての生徒が学習しやすいよう，カラーバリアフリーに配慮したりするなど，使用上の便宜が図られている。</p>			

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、中世の学習におけるアイヌの人々の交易や、江戸時代の学習における蝦夷地との交易の様子などが取り扱われている。北方領土については、太平洋戦争終結の学習の本文や特設ページ「我が国の領土をめぐる問題の歴史」において取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、序章「地域の歴史を調べてみよう①」において、プレゼンテーションソフトを活用した発表方法を紹介するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、序章において、小学校で学習した歴史上の人物が活躍した時代及び関わりのある出来事や文化遺産を振り返る活動を位置付け、中学校の歴史の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に各時代がどのような時代であったかについて理由とともに話し合わせる設問を設定するとともに、歴史的事象について複数の立場から考えさせる「歴史のターニングポイント」を設定するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、資料を比較するよう促すキャラクターのせりふを位置付けるなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、各見開きに一単位時間で学習した内容を説明する「学習のまとめ」を設定するとともに、章末にその時代で最も重要であると考えた人物を説明する問題を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	

観点	番号	発行者の番号・略称	使用学年・分野	教科書の記号・番号	教科書名
		229・学び舎	第1・2・3学年 歴史的分野	歴史・711	ともに学ぶ人間の歴史
取扱内容	学習指導要領の総則及び各教科の目標、内容等	<p>○ 歴史的分野の目標が達成できるよう、次のような学習活動が取り上げられている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちと歴史」において、歴史の流れを示した表と小学校で学んだ人物や出来事に着目して、時代区分との関わりについて考察したり、西暦や元号、世紀、時代区分などの資料から年代の表し方の意味や意義を理解したりする活動</li> <li>・「身近な地域の歴史」において、推移や比較などの視点に着目して、東京の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察したり、調査や発表の方法を示した資料から地域の歴史についてまとめる方法を理解したりする活動</li> <li>・「古代までの日本」において、弥生時代では稲作の広まりに着目して、暮らしや社会の変化を考察したり、単元のまとめでは「人びとの生活や社会のようす、制度や文化はどう変化したか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「中世の日本」において、室町時代では諸産業の発達に着目して、都市や農村の自治的な仕組みの成立を考察したり、単元のまとめでは「中世はどのような人びとが力をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近世の日本」において、江戸幕府の政策や社会の変化に着目して、百姓一揆が起こった原因を考察したり、単元のまとめでは「中世との比較から近世・江戸時代の特色を考えよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「近代の日本と世界」において、議会政治の始まりに着目して、自由民権運動の変化を考察したり、単元のまとめでは「近代はどのような特色をもった時代だったか」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> <li>・「現代の日本と世界」において、サンフランシスコ講和会議の参加国に着目して、第二次世界大戦後の日本の国交の変化を考察したり、単元のまとめでは「時代の変化を絵に表してみよう」という主題を設けて時代の特色を理解したりする活動</li> </ul> <p>○ 主体的・対話的で深い学びの実現に資する学習への対応については、近世の統一事業の学習において、学習課題を設定し、見通しをもたせるとともに、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康が実施した政策と人々の生活への影響について話し合い、考えを広げたり深めたりする学習活動が取り上げられている。</p>			
内容の構成・排列、分量等	<p>○ 内容の構成・排列については、「歴史と出会う」において、歴史の学び方について学習した後に、時代区分毎に時代の特色や歴史の流れについて学習するなど、系統的・発展的に学習できるような工夫がなされている。</p> <p>○ 内容の分量については、「歴史との対話」は 8 ページ、「近世までの日本とアジア」は 124 ページ、「近現代の日本と世界」は 146 ページ、その他は 21 ページであり、総ページ数は 299 ページで、前回より約 3 % 増となっている。</p>				
使用上の配慮等	<p>○ 領土の画定に関する学習において、開拓使の設置や北海道への移住奨励に関する資料を掲載して、明治時代の北海道の開拓の進展について説明したり、江戸時代にアイヌの人々が採集した昆布の行方を課題として提示し、近隣諸国との交易について紹介したりするなど、生徒の学習意欲を高める工夫がなされている。</p> <p>○ 「フォーカス」で、歴史の舞台に焦点を当てて知識を深める活動や、「歴史を体験する」で、学習内容に関わる体験活動を掲載するなど、主体的に学習に取り組むことができるような工夫がなされている。</p> <p>○ 教科書の使い方について説明するページを設けたり、全ての生徒が学習しやすいよう、カラーユニバーサルデザインに配慮したりするなど、使用上の便宜が図られている。</p>				

<p>指導上の 配慮等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地域素材については、江戸時代におけるアイヌの人々の暮らしの様子、明治時代の学習における東京で日本語を学んだアイヌの人々などが取り扱われている。北方領土については、日本の独立の学習における本文及びコラムにおいて取り扱われている。</li> <li>○ ICTの活用については、「歴史を体験する」において、「洛中洛外図屏風」のデータを公開している国立歴史民俗博物館のホームページへのリンクの仕方を掲載するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 小中連携による指導については、巻頭の「歴史への案内」において、小学校で学習した歴史上の人物などを振り返る活動を設定し、中学校の歴史の学習に対する興味・関心を高められるよう配慮がなされている。</li> </ul>
<p>本市生徒の 学習の状況等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 社会的事象の意味や意義について多面的・多角的に考察する力を育むことができるよう、章末に各時代の特色などについて前時代との共通点や相違点をまとめる設問を設定するとともに、側注において、歴史に関わる事象について複数の説があることを解説するなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 複数の資料から適切な資料を選択したり、資料を関連付けて情報を読み取ったりする力を育むことができるよう、巻頭の「歴史への案内」において、出来事や文化を調べる際のまとめ方を例示し、歴史の学習を進める上で基礎的・基本的な技能を身に付けることができるようにするなどの工夫がなされている。</li> <li>○ 既得の知識を関連付けて学習内容を深く理解し、概念などに関する知識として獲得することができるよう、章末の「章をふりかえる」や「部の学習のまとめ」において、各時代の特色などを説明する問題を設定するなどの工夫がなされている。</li> </ul>
<p>その他</p>	